

# 平成24年度登録販売者試験問題（午前）

指示があるまで開いてはいけません。

受験番号

氏名

平成24年8月26日

和歌山県

## 注意事項及び答案用紙の記入について

- 問題は10時から12時までの120分間で解答してください。
- 問題は2項目で60問あります。  
また、ページは1ページから32ページまであります。
- この試験の医薬品の名称及び成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する引き(平成19年8月(平成21年6月一部修正))」に基づいています。
- 答案用紙は、直接機械にかけますので、折り曲げたり汚さないようにしてください。
- 受験番号、氏名を問題及び答案用紙の所定の欄に忘れず正しく記入してください。  
答案用紙には、受験番号を1ケタごとに該当する[・]をマークしてください。
- 鉛筆は、HBを使用してください。  
訂正するときは、消しゴムできれいに消してください。
- 答案用紙は、解答番号がすべて1から5まであります。問題によっては、解答の選択肢が1から4までの問題があるので、注意してください。
- 回答は1つです。2つ以上マークした場合は、誤りになります。
- [・]にマークするとき、枠外へはみ出さないようにしてください。

## 答案用紙の記入のしかた

受験者氏名				
和歌山 太郎				
受験番号				
0	1	2	3	4
●	E0	E0	E0	E0
E1	●	E1	E1	E1
E2	E2	●	E2	E2
E3	E3	E3	●	E3
E4	E4	E4	E4	●
E5	E5	E5	E5	E5
E6	E6	E6	E6	E6
E7	E7	E7	E7	E7
E8	E8	E8	E8	E8
E9	E9	E9	E9	E9

←氏名を記入

←受験番号を記入

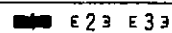

←受験番号をマーク  
上の数字に該当する[・]をマークして下さい。

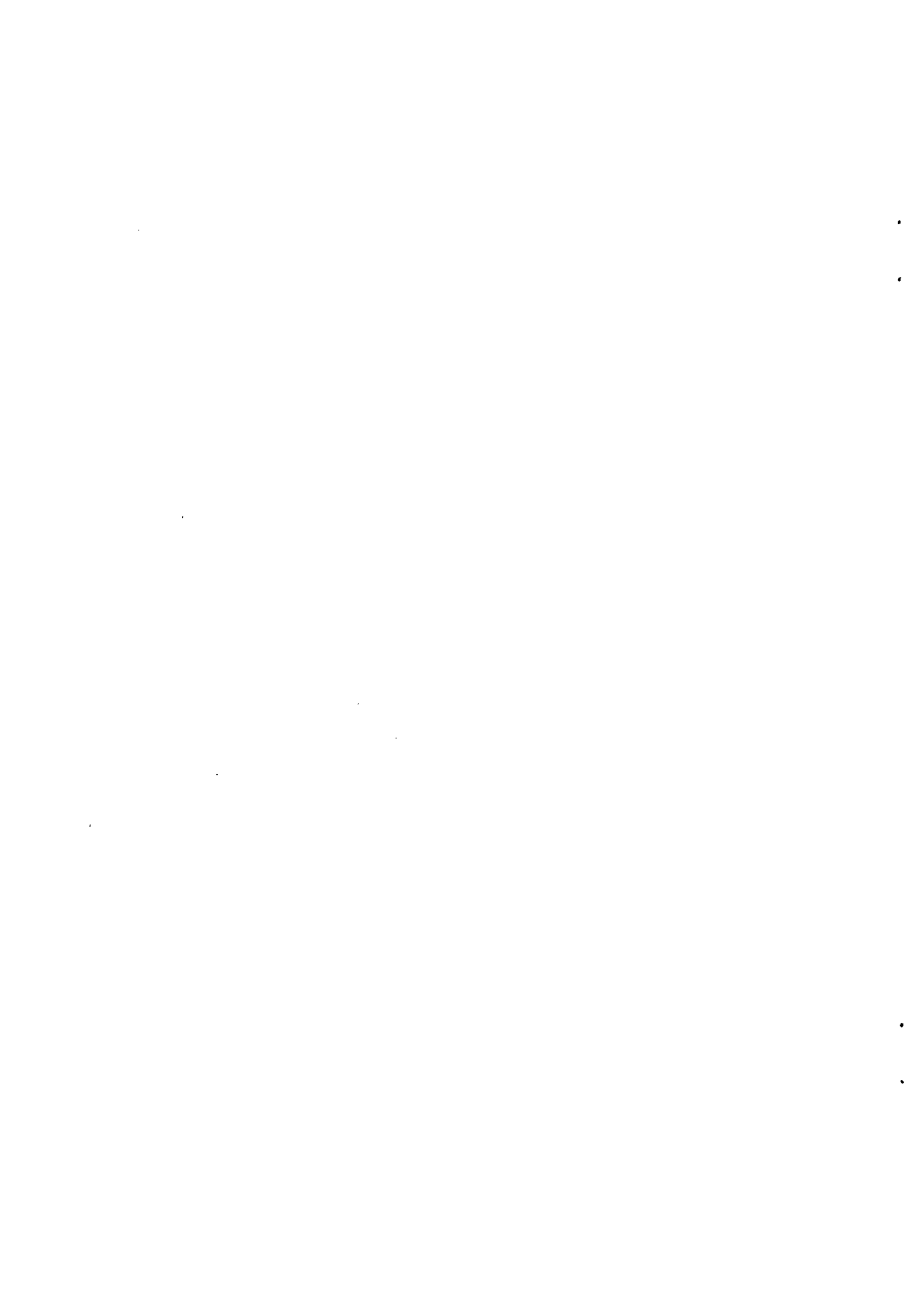
問1 和歌山県庁の所在地は次のうちどれか。

- 橋本市
- 和歌山市
- 有田市
- 新宮市

問題番号	解答番号
問1	E1 E2 E3 E4 E5

問1の正解は「②和歌山市」ですから、答案用紙の問1の[2]を上のようにマークして下さい。  
(注)マークの仕方

よい例  E2 E3  
悪い例  E2 E3



【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問1

医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品であっても、人体に及ぼすその作用は有益な作用ばかりでなく、好ましくない作用を生じることがある。
- b 人体に対して使用されない医薬品についても、使用法によっては人の健康に影響を与える場合がある。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡っているが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されている。
- d 一般用医薬品は、相対的に医療用医薬品ほど作用が強くないので、特に保健衛生上のリスクに注意する必要はない。

- 1 (a, b)      2 (a, c)      3 (b, d)      4 (c, d)

問2

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品と異なり、安全性が高いために市販後の安全性の確認が行われるような仕組みは確立されていない。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるため、その添付文書や製品表示は認識しやすく、誤解を生じることはない。
- c 一般用医薬品にも、習慣性、依存性がある成分を含んでいるものがあり、そうした医薬品がしばしば乱用されることが知られている。
- d 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいる（配合される）ことが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問3

次の記述は、WHO（世界保健機関）の医薬品の副作用についての定義である。（ ）の中に入れるべき字句はどれか。

疾病の予防、診断、治療のため、または身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の（ ）反応

- 1 深刻かつ重大な侵害性の
- 2 有害かつ意図しない
- 3 有毒かつ回復しない
- 4 不快かつ過剰な中毒性の
- 5 不健全かつ予想外の

問4

アレルギー（過敏反応）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがある人は、その医薬品に免疫ができているため、次回から使用しても問題はない。
- b 医薬品によるアレルギーは、内服薬で起こり、外用薬では起こらない。
- c アレルギーには、体質的・遺伝的な要素もある。
- d 医薬品の添加物も、原因物質（アレルゲン）となりえる。

- 1 (a, b)      2 (a, c)      3 (b, d)      4 (c, d)

問5

医薬品の相互作用に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、他の医薬品と併用した場合でも相互作用が起こることはない。
- 2 医薬品と保健機能食品やいわゆる健康食品と一緒に摂取しても相互作用を起こすことはない。
- 3 複数の疾病を有する人は、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多いため、医薬品同士の相互作用について特に注意が必要である。
- 4 相互作用は、医薬品が吸収、分布、代謝または排泄される過程でのみ起こるものである。

問6

医薬品の使用上の注意等において用いられる乳児等の年齢区分のおおよその目安について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

乳児とは ( a )、小児とは ( b ) をいう。

	a	b
1	2歳未満	15歳未満
2	2歳未満	13歳未満
3	1歳未満	13歳未満
4	1歳未満	7歳未満
5	1歳未満	15歳未満

問7

小児等の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は大人に比べて中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- b 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄時間が短く、作用が弱く出る傾向がある。
- c 成人用の医薬品でも、医薬品の量を半分以下に減らせば小児に与えても問題はない。
- d 乳児は、医薬品の影響を受けやすく、また状態が急変しやすいため、一般用医薬品を使用するよりも医師の診療を受けることが優先される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 8

高齢者の医薬品使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意において「高齢者」という場合は、おおよその目安として75歳以上をさす。
- b 医薬品の副作用で口渇を生じることがあるため、特に高齢者では、誤嚥<sup>えん</sup>を誘発しやすくなるので注意が必要である。
- c 高齢者が一般用医薬品を定められた用量で使用しても、なお作用が強過ぎる等の問題が生じる場合は、定められた用量未満の量に減らして服用を続けることが望ましい。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合がある。

- 1 (a, c)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (b, d)

問 9

妊婦・妊娠していると思われる女性の医薬品使用に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品の中には、( a ) 含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものや、( b ) のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

	a	b
1	ビタミンA	便秘薬
2	ビタミンA	整腸薬
3	ビタミンB1	鎮痛薬
4	ビタミンB1	便秘薬
5	ビタミンE	整腸薬

問10

医薬品の使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医療機関や薬局で交付された薬剤を使用している人について、登録販売者は、一般用医薬品との併用の可否を判断し、その薬剤を処方した医師、歯科医師または調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要はない。
- b 生活習慣病等の慢性疾患が一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える場合もある。
- c 登録販売者は、過去に医療機関で治療を受けていた(今は受けていない)という購入者に対しては、一般的な情報提供を行えば、いつ頃どのような疾患にかかっていたかは、特に注意する必要はない。
- d 一般用医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるものがある。

- 1 (a, b)      2 (a, c)      3 (b, d)      4 (c, d)

問11

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることがある。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの(効果)のみである。
- c プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、必然的な薬理作用により生じる効果をいう。
- d プラセボ効果は不確実であるが、用法・用量を守ればそれを目的として医薬品を使用しても問題はない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問12

医薬品の品質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている有効成分は、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化を起こすことはない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。
- c 一般用医薬品では、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売されることが重要である。
- d 医薬品は、いったん開封されても、表示されている使用期限まで品質が保証されている。

- 1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問13

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 悪性腫瘍の治療
- b 殺菌消毒
- c 健康状態の自己検査
- d 生活の質（QOL）の改善・向上

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤



問14

一般用医薬品で対処可能な症状等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品で対処可能な範囲は、妊婦の場合でも、通常の成人と変わらない。
- b 一般用医薬品を一定期間もしくは一定回数使用しても症状の改善がみられない、または悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受けることが望ましい。
- c 登録販売者が、購入者等に対して医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合もある。
- d 症状が重いとき（例えば、高熱や激しい腹痛がある場合、患部が広範囲である場合等）に、一般用医薬品を使用することは、適切な対処といえる。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問15

WHO（世界保健機関）によるセルフメディケーションの説明として、正しいものはどれか。

- 1 患者自身が医師から処方された薬を指示通り正しく、確実に服用し、注意事項を守ること。
- 2 治療法などについて、十分な説明を受けた上で、患者自身が正しく理解し納得して、同意すること。
- 3 一人の医師の意見だけで決めてしまわずに、別の医師の意見も聞いて患者自身が治療法などを決めること。
- 4 自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること。

問16

登録販売者が一般用医薬品を販売する際の対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者側に、情報提供に対する意識が乏しい場合でも、必要な情報提供を行えるよう、コミュニケーション技術を身につけるべきである。
- b 必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- c 購入者側があらかじめ購入する医薬品を決めている場合には、購入者側の個々の状況を把握する必要はない。
- d 必要以上に大量購入を試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要があり、積極的に事情を尋ねるなどの対応が図られることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問17

登録販売者が購入者から確認しておきたい基本的なポイントの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- b 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- c その医薬品を使用する人は購入者本人か、またはその家族等か。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問18

サリドマイドに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリドマイドは、過去には、催眠鎮静成分として承認されていた。
- b 血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、R体のみが有する作用であるとされている。
- c 妊娠している女性が摂取した場合、サリドマイドは胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- d サリドマイドによる薬害事件は日本のみであり、世界的には問題とならなかった。

1 (a, b)      2 (a, c)      3 (b, d)      4 (c, d)

問19

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモンとは、亜急性<sup>せきすい</sup>脊髄視神経症のことである。
- b スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、スモンに罹患<sup>り</sup>したことに対する損害賠償訴訟である。
- c スモンはその症状として、激しい腹痛を伴う下痢、下半身の痺<sup>しび</sup>れ、歩行困難等が現れるが、麻痺が上半身に拡がることはない。
- d 現在では、スモン患者に対し、施術費および医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が行われている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）およびCJD訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDは、細菌の一種であるプリオンが原因とされる。
- c CJD訴訟では、国を唯一の被告として提訴された。
- d CJD訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 2 1

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱作用を期待して、フマル酸クレマスチンが配合される場合がある。
- b 塩酸エチルシステインは、鎮咳<sup>がい</sup>作用を目的として配合される場合がある。
- c プロメラインは、蛋白質<sup>たん</sup>分解酵素で、体内で産生される炎症物質を分解する作用を示す。
- d 塩化リゾチームは、鶏卵の卵白から抽出した蛋白質<sup>たん</sup>であるため、鶏卵アレルギーがある人では、使用を避ける必要がある。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 2 2

かぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤として、小<sup>しょう</sup>青<sup>せい</sup>竜<sup>りゅう</sup>湯、桂<sup>けい</sup>枝<sup>し</sup>湯、香<sup>こう</sup>蘇<sup>そ</sup>散<sup>さん</sup>などがある。
- b 通常、複数の有効成分が配合されているため、他のかぜ薬等の併用により副作用が起こりやすくなるおそれがある。
- c かぜ薬に配合されることがあるイブプロフェンによる重篤な副作用として、無菌性<sup>ずい</sup>髄膜炎<sup>ずい</sup>がある。
- d かぜ薬の使用は、発熱や頭痛・関節痛、くしゃみ、鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、咽頭痛、咳、痰<sup>たん</sup>等の症状を緩和する対症療法である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

問23

解熱鎮痛成分に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起こりにくい。
- 2 アセトアミノフェンは、解熱、鎮痛、抗炎症作用が期待できる。
- 3 一般用医薬品では、解熱鎮痛成分としてイブプロフェンを含有する小児向けの内服薬はない。
- 4 ピリン系の解熱鎮痛成分として、アスピリンやサザピリンがある。

問24

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害を低減させることを目的として、水酸化アルミニウムゲル等の制酸成分が配合されている場合がある。
- b 鎮静作用がある生薬成分として、カノコソウが配合されている場合がある。
- c 発熱によって消耗されやすいビタミンの補給を目的として、メトカルバモールが配合されている場合がある。
- d 鎮痛作用を高める効果を期待して、無水カフェインが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問25

眠気を促す薬とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブロムワレリル尿素は、胎児障害の可能性があるので、妊婦は使用を避けることが望ましい。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用をしてもよい。
- c 寝つきが悪いときの対処として、塩酸ジフェンヒドラミンを含有する催眠鎮静薬とアルコール摂取の併用が推奨される。
- d 不眠に関して、基本的に、一般用医薬品を使用して対処することが可能であるのは、特段の基礎疾患のない人で、ストレスや疲労等による一時的な不眠、寝つきが悪い場合である。

1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問26

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 胃液の分泌を抑制する作用がある。
- b 腎臓での水分の再吸収を抑制する。
- c 尿量の増加（利尿）をもたらす。
- d 心筋を興奮させる作用がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問27

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 乗物酔い防止薬には、吐き気を抑えることを目的とした成分も配合されているので、つわりに伴う吐き気に対しても使用が推奨される。
- b 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- c 抗ヒスタミン成分として、ジメンヒドリナートが配合されている場合がある。
- d 脳への抑制作用により、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、ジプロフィリンが配合されている場合がある。

1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問28

小児の瘡を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- b 主に鎮静作用を目的として、カンゾウが配合されている場合がある。
- c 生後3ヶ月未満の乳児に使用しても問題はない。
- d 小児の瘡を適応症とする漢方処方製剤として、小建中湯、柴胡加竜骨牡蛎湯がある。

1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)



問29

リン酸コデインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a <sup>せきすい</sup> 脊髄の<sup>がいそ</sup> 咳嗽中枢に作用して、<sup>せき</sup> 咳を抑える。
- b 麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取により<sup>けん</sup> 倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- c 妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- d 胃腸の運動を亢進させるため、副作用として下痢が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問30

カンゾウに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a グリチルリチン酸が含まれており、抗炎症作用がある。
- b 大量に摂取すると偽アルドステロン症を起こすおそれがある。
- c カンゾウは、かぜ薬や鎮咳去痰<sup>がいたん</sup>薬以外の医薬品にも配合されていることがある。
- d <sup>かんぞうとう</sup> 甘草湯は、構成生薬がカンゾウのみからなる漢方処方製剤で、激しい<sup>せき</sup> 咳や咽喉痛の緩解に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問31

含嗽薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔内または咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的としている。
- b 用時に水で希釈または溶解して使用するものが多い。
- c 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは、口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問32

胃に作用する薬の配合成分とその主な作用の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

	[配合成分]	[主な作用]
1	オウバク	健胃作用
2	スクラルファート	胃粘膜保護・修復作用
3	ジアスターゼ	消化作用
4	塩酸ピレンゼピン	消泡作用

問33

胃腸に作用する薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健胃薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする。
- b 消化薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする。
- c 塩酸セトラキサートは、消化管の内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として用いられる。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、ロートエキスが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問34

ヒマシ油に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒマシ油は、ヒマシ（トウダイグサ科のトウゴマの種子）を圧搾して得られた油を用いた生薬である。
- b 日本薬局方収載のヒマシ油は、弱い瀉下作用を示すため、3歳未満の乳幼児に用いられる。
- c 防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒に対して効果的である。
- d 吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を引き起こすおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	正

問35

腸に作用する薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の使用中に原因が明確でない下痢や便秘を生じた場合は、直ちに止瀉薬や瀉下薬によって症状を抑える必要がある。
- b 腸内細菌による分解を受けて作用する成分が配合された瀉下薬に、生菌成分が配合された整腸薬が併用された場合、瀉下作用が強くなり、副作用を生じやすくなるおそれがある。
- c 瀉下薬については、複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状等を生じるおそれがある。
- d 一般用医薬品では、生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬が併用された場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問36

胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ロートエキスは副作用として、散瞳による目のかすみや異常な眩しさ、顔のほてり、頭痛、眠気、口渇、便秘、排尿困難等が現れることがある。
- 2 塩酸パパベリンは、自律神経系を介した作用により、眼圧を上昇させる。
- 3 アミノ安息香酸エチルは、消化管の粘膜および平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合される。
- 4 オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もある。

問37

浣腸薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 繰り返し使用すると直腸の感受性が高くなり、効果が増強される。
- b 一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦または妊娠していると思われる女性では使用を避けることが望ましい。
- c グリセリンが配合された浣腸薬が、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- d グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問38

駆虫薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、条虫および吸虫である。
- b 腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫には駆虫作用が及ばない。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- d 一度駆虫し、再度駆虫を必要とする場合には、1ヵ月以上間隔を置いてから使用することとされている。

- 1 (a, b)      2 (a, c)      3 (b, d)      4 (c, d)

問39

心臓に作用する薬に配合される成分に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 ゴオウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされている。
- 2 リュウノウは、フタバガキ科のリュウノウジュの樹幹の空隙に析出する精油の結晶を用いた生薬で、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- 3 ロクジョウは、ウシ科のウシの胆嚢<sup>のう</sup>中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされている。
- 4 センソが配合された内服固形製剤は、口中で吸収されることにより作用を示すため、嚙<sup>か</sup>みながら服用することとされている。

問40

苓<sup>りょう</sup>桂<sup>けい</sup>朮<sup>じゆつ</sup>甘<sup>かん</sup>湯<sup>とう</sup>に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 めまい、ふらつきがあり、または動悸<sup>き</sup>があり、尿量が減少する人における、神経質、ノイローゼ、めまい、動悸<sup>き</sup>、息切れ、頭痛に適すとされる。
- 2 強心作用が期待される生薬が含まれている。
- 3 構成生薬としてカンゾウを含む。
- 4 比較的長期間（1ヶ月位）服用されることがある。

問41

高コレステロール改善薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの瘦身<sup>そう</sup>効果を目的とする医薬品である。
- b 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされている。
- c ビタミンEは、過酸化脂質の生成を抑える作用があるとされている。
- d リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合は、使用を中止し、医療機関を受診するよう促すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問42

貧血用薬（鉄製剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄欠乏性貧血に対して不足している鉄分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。
- b 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- c ビタミンCを含む飲食物と一緒に摂取すると、ビタミンCと鉄が反応して鉄の吸収が悪くなる。
- d 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正



問43

貧血用薬（鉄製剤）とその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 銅は、糖質・脂質・蛋白質<sup>たん</sup>の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- b コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- d ビタミンAは、ヘモグロビン産生や赤血球の形成に働くビタミン成分として、配合されている場合がある。

- 1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問44

ユビデカレノンに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 肝臓や心臓などの臓器に多く存在する。
- 2 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンCとともに働く。
- 3 コエンザイムQ10ともよばれる。
- 4 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。

問45

外用痔疾用薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 局所麻酔成分は、皮膚や粘膜などの局所に適用されると、その周辺の知覚神経に作用して刺激の伝達を可逆的に遮断する作用を示す。
- b ビタミンEは、出血を助長するおそれがあり、外用痔疾用薬には配合してはいけないことになっている。
- c 血管収縮作用による止血効果を期待して、塩酸テトラヒドロゾリンが配合されていることがある。
- d ステロイド性抗炎症成分が配合された坐剤および注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問46

内用痔疾用薬の配合成分とその主な作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

- |   | [配合成分]   | [主な作用] |
|---|----------|--------|
| a | オウゴン     | 抗炎症作用  |
| b | カイカク     | 血行促進作用 |
| c | セイヨウトチノミ | 止血作用   |
| d | プロメライン   | 抗炎症作用  |

- 1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問47

次の婦人薬に用いられる生薬成分のうち、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和する作用を期待して用いられるものについて、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オウレン
- b ブクリョウ
- c センキュウ
- d トウキ

1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問48

アレルギー用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェンヒドラミンは、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
- b シンイは、モクレン科のコブシ等の根茎を用いた生薬で、発汗、解熱、鎮痛等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。
- c 鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイド等の抗コリン成分が配合されている場合がある。
- d 塩酸ピリドキシンは、アドレナリン作動成分として配合され、副作用として、めまいや頭痛、排尿困難が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問49

鼻に用いる薬とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対する効果を期待して、クロモグリク酸ナトリウムが配合されている場合がある。
- b 剤型はスプレー式で鼻腔内に噴霧するものが多いが、小児向けの商品には液剤を綿棒で塗布するタイプもある。
- c 鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として、塩化セチルピリジニウムのような殺菌消毒成分が配合されている場合がある。
- d 鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を抑えることを目的として、塩酸フェニレフリンのような局所麻酔成分が配合されている場合がある。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問50

眼科用薬に配合されている成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 メチル硫酸ネオスチグミンは、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- 2 スルファメトキサゾールは、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎等の化膿<sup>のう</sup>性の症状の改善を目的として用いられる。
- 3 硝酸ナファゾリンは、目の充血を除去することを目的として用いられる。
- 4 イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。

問51

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗菌性点眼薬は、目の洗浄、眼病予防に用いられるもので、主な配合成分として涙液成分のほか、抗炎症成分、抗ヒスタミン成分等が用いられる。
- b 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- c 点眼薬は、結膜嚢（結膜で覆われた眼瞼（まぶた）の内側と眼球の間の空間）に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- d 洗眼薬は、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎（まぶたのただれ）等に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問52

口内炎および口内炎用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 口内炎の再発を繰り返す場合は、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診することが望ましい。
- c シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を用いた生薬で、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。
- d 塩酸クロルヘキシジンは、口腔粘膜の炎症を和らげることを期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問53

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対して効果がある。
- b マーキュロクロムは、皮膚浸透性が高く、通常の使用においても水銀中毒を生じることがある。
- c ポビドンヨードは、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- d オキシドールの殺菌作用は、持続性に乏しく、また組織への浸透性も低い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問54

歯槽膿漏<sup>そうのうろう</sup>の配合成分とその主な作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

	[配合成分]	[主な作用]
a	チモール	殺菌消毒作用
b	フィトナジオン (ビタミンK1)	止血作用
c	アラントイン	鎮痛作用
d	カルバゾクロム	組織修復作用

- 1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問 5 5

ニコチンを含む禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が上昇するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した場合は、しばらくは使用を避けることとされている。
- b ニコチン置換療法とは、初期には喫煙をしながら禁煙補助剤を使用し、その後、徐々に喫煙を減らしていく方法である。
- c 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすく、誤って使用されることのないよう留意される必要がある。
- d 口内炎や喉の痛み、腫れの症状がある場合に使用すると、口内・喉の刺激感等の症状が現れやすくなる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 5 6

滋養強壮保健薬に配合されるビタミン成分のうち、腸管でのカルシウム吸収および尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助けるものはどれか。

- 1 ビタミンA
- 2 ビタミンB6
- 3 ビタミンC
- 4 ビタミンD
- 5 ビタミンE



問57

滋養強壯保健薬の配合成分とその主な作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | [配合成分]                   | [主な作用]                     |
|--------------------------|----------------------------|
| a システイン・・・・・・・・・・・・・・・・  | しみ、そばかす、日焼けなどによる色素沈着の症状の緩和 |
| b 塩酸チアミン・・・・・・・・・・・・・・・・ | 目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状の緩和       |
| c アスパラギン酸ナトリウム・・・・・・・・   | 肝臓機能の改善                    |
| d コンドロイチン硫酸ナトリウム・・       | 関節痛、筋肉痛等の改善                |

- 1 (a, b)      2 (a, d)      3 (b, c)      4 (c, d)

問58

消毒薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。
- b クレゾール石<sup>けん</sup>鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対し比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c ジクロルイソシアヌル酸ナトリウム等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- d イソプロパノールは、微生物の<sup>たん</sup>蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示し、ウイルスに対する不活性効果はエタノールよりも高い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問59

殺虫剤に用いる殺虫成分とその分類について、正しいものの組み合わせはどれか。

[殺虫成分]	[分類]
a ジクロルボス	有機リン系
b オルトジクロロベンゼン	カーバメイト系
c プロポクスル	有機塩素系
d ペルメトリン	ピレスロイド系

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問60

一般用医薬品の妊娠検査薬の記述について、正しいものはどれか。

- 1 薬局においてのみ取り扱うことが認められた製品である。
- 2 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
- 3 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日を過ぎて3日以内の検査が推奨されている。
- 4 検体としては、尿中hCGが検出されやすい就寝前の尿が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。